

楽しい夏休みになりましたね。計画を立てて、ふだんできない事にいろいろ挑戦してみましよう。猛暑です。すてきな海の詩をプレゼントします。

海を見よ

坂村真民

しんみんよ

海を見よ

おまえの好きな

海を見よ

そしたら一切受容という事が

よくわかるだろう

宇宙の実体がわからないなら

海を見よ

そしたらその本義がわかるだろう

仏陀の慈悲がわからないなら

海を見よ

海がそれを知らせてくれるだろう



「すべては光る」坂村真民著より

【お盆】十五日

仏教行事のように思われていますが、これも日本固有の祖霊信仰です。「盆と正月」というように、正月は神式、盆は仏式の祖霊迎いの行事です。七夕の笹竹は門松と同じく祖先を迎えるアンテナの役目。『日本書紀』にあるように「仏てふ神」で、仏も神なのです。

七日盆で七日からお盆が始まる地方もあります。十三日が迎え火。月おくれ盆といって八月にお盆の地方も多い。迎え火や送り火は、祖先の通る道筋を明るくするための門火。盆踊りはお迎えした祖先に供するための踊りですが、祖霊も一緒に踊っていたたく地方もあるようです。

【土用入】二十日頃

夏の土用入り。春夏秋冬とともにその季の終わりの十八日間が土用。夏の土用はこの期間が暑中で、土用丑の日だとか土用干しなどあるので有名となり、土用とは夏と思われています。春の節分と同じような雑節のひとつです。



【海の日】第三月曜(今年は七月十六日)

「海の日」は、平成七年に祝日法が改正された折に制定されたので、他の祝日に比べると最も新しい祝日。正確な由来に遡ると昭和十六年に七月二十日を「海の記念日」としたのを引き継いだもの。この七月二十日とは、明治天皇が明治九年の東北・北海道ご巡幸の折、陸路の旅は青森まで、あとは海を渡って函館に巡航され市内ご視察の後、海路でご帰還、横浜港に到着された日です。



を、天皇さまは国民の先頭に立って歩まれたのは、明治天皇の東北・北海道のご巡幸と同じで君民一体の姿なのであります。

現在では、「海洋国日本」ですが、明治の時代はまだ汽船による航行には相当の不安があった一般国民も、同行の人々が船酔いに苦しんでいたのに天皇さまは泰然としておられたそうで、それを伝え聞いた国民は、このご巡幸を機に開運と船旅への理解を深め、その利用も急増したそうです。この「海の日」は、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う」の日との趣旨で、海と国家とのあり方を考えようとの意味をこめた祝日なのです。

### 家庭教育のワンポイントアドバイス

君が代

「君が代は千代に八千代に  
さざれ石の巖となりて 苔のむすまで」

この君が代の歌詞は和歌です。我が国の歴史が始まって以来ずっと今日に至るまで歌い継がれてきた和歌です。この和歌の意味を調べてみますと、今から三億三千万年ぐらい前にアジア大陸の外側で(今日本列島がある付近で)沈み始め、その沈みはじめた海底にアジア大陸側から風化によって崩れた石ころが流れてきて積もり始めたものです。このように砕かれた細かい石のことをさざれ石といえます。さざれ石が流れて、固まった巖(いわお)が集まってできたものです。

「君が代」の歌詞は、まさに、日本列島の誕生を歌っています。苔は生命の象徴です。

「さざれ石」は単に石のことではなく個性的な理念を代表しており、バラバラの個性が全体として仲良く結びつける時、新生命・新価値を生じてく

る。このムスビの哲学が日本の心です。おのもおのものに一人一人は、個性をあらわして生きているが、それらはみんな仲良く一つになって、全体の生命と共に生かし合っているという心が、日本民族がとらえた宇宙大生命とびつたり一つになり、一千年も二千年も自然に歌い継がれてきた、人為を越えた価値が輝いているのであります。

（「神の子」の教育 鹿沼景揚著）

甲斐 敬子

## 和歌コーナー



しゅうやくん はやくおおきくなつてねと

ねがいごとかいたんだよ たなばたかざり

年長 N・H

☆はるまくんが、弟のしゅうやくんをかわいがっているやさしい気持ちで、伝わってきます。

ささのはの たなばたかざり きれいだな

かなうといいな みんなのねがい

年長 M・S

☆みずみずしいささのはにつけたたんざく。書いたねがいごとがかなうといいですね。

たなばたが たのしかったよ

つりさげる まるいわやほし きらきらしてる

小学一年 Y・K

☆まるいわかざりや、きらきらしたほしや

あまのがわやちようちんや、いろんなたなばたのかざりを、ささにつけてたのしかったですね。



## 夏休みオープン寺子屋

8月25日 10:00～12:00

第一部 **らくごきょうしつ 落語教室** 桂咲之輔さん



平成19年4月 桂春之輔に入門  
平成30年1月 「新進落語家競演会」新人賞受賞

本物の落語を親子で楽しもう

第二部 **かいがきょうしつ 絵画教室** 古宮あまさ先生



「自由に描くことを楽しむ」  
パステルアート

夏休みの自由作品夏の風物、ひまわりの絵をかきます  
になりますよ～

寺こやでね お習字をやった  
たのしかった 山脈と書いたよ  
上手に書けたよ

小学四年 M・A

☆「脈」という字は、むずかしいけれど、お手本をよく見て、集中して書いていましたね。素晴らしい字をかくことができました。

つゆいりであじさいさいた きれいだな

きれいな海のようなあじさい

小学五年 Y・Y

☆今年のおあじさいは、本当にきれいでしたね。あじさいの花の色から青い海を思い浮かべることができる裕太郎君の心はすてきですね。



### 今月の論語

子、曰く

りよ おこな

「利に放りて行えば

うら おお

怨み多し。」

（現代語訳）

孔子先生がおっしゃった。

「利益利益と、利益ばかりを求めすぎる

と、人のうらみを買うことが多い。」

（解説）

自分さえよければ、あるいは自分が得する

ことばかりを考えていませんか。それでは

信じ合える本当のお友達はできませんね。

優しい気持ちを忘れてはいけませんね

「親子で楽しむ こども論語塾」（明治書院）より

次回は、オープン寺子屋、**十時～十二時**です。  
八月二十五日（土）、**四階 四〇二室**です。

（文責・藤波）